

草津市指定管理者選定評価委員会議事概要

開催年月日	令和元年10月3日(木)	開催時間	午前9時から 午後0時まで
出席者	委員6名、施設担当職員3名、事務局4名 各申請団体		
傍聴者	無し		
付議事項	指定管理者の候補者の選定に係る意見を求めること等について 「草津市児童育成クラブ」の指定管理者の候補者の選定		
<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局より本日のスケジュールの説明</li> </ul> <p>2 「草津市児童育成クラブ」の指定管理者の候補者の選定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当課より施設概要等説明</li> <li>・申請者プレゼンテーション①</li> <li>・質疑応答</li> <li>・申請者プレゼンテーション②</li> <li>・質疑応答</li> <li>・申請者プレゼンテーション③</li> <li>・質疑応答</li> <li>・申請者プレゼンテーション④</li> <li>・質疑応答</li> </ul> <p>3 審議・採決</p> <p>4 事務連絡</p> <p>5 閉会</p>			

- ◆前回到引き続き、令和元年度末で指定期間満了を迎える施設において、申請のあった団体（以下「申請者」という。）が指定管理者として適任かどうか審議を行った。（9事業者のプレゼンテーションとこれにかかる質疑を行うため、時間の関係上、3日にかけて児童育成クラブの選定を行うこととしており、最終日に候補者の選定を行うこととしており、この日はその3日目。）

## 「児童育成クラブ」4事業者のプレゼンテーションおよび質疑

### 1 各申請者によるプレゼンテーションおよび質疑応答

- ◆社会福祉法人 志津保育園（以下「志津」という。）によるプレゼンテーション：略  
（以下 質疑応答）

<委員（以下「委」という。）>：申請書に「室内に閉じこもっているとストレスがたまる、危険行動につながりやすいので、運動場などで外遊びを行う」とあるが外遊びが苦手な子どもについては。

<志津>：もちろん外に出ない子どもおり、室内で遊ぶ子どもについては別の職員が指導・見守りを行っている。

<委>：小学校との連携を密にしており、子どもの状態を把握しているということだが、小学校の方で「のびっ子」の職員と連携し合うような仕組みがあるのか。

<志津>：1名、小学校の「のびっ子」の担当がおり、その方がそのクラスの学年主任、あるいは担任と話をし、我々とのコミュニケーションに努めている。加えて、小学校の支援員に放課後來ていただき、情報の把握に努めている。

<委>：子どもが病気などいろいろなことが起こった場合のケアについて、保育所を運営しているから役立つ点等はあるか。

<志津>：保育所の保育士と兼任している職員が2人おり、事例はなかったが、救急車を呼ぶ等の判断に関しては利点があると思う。

- ◆社会福祉法人 ご縁会（以下「ご縁会」という。）によるプレゼンテーション：略  
（以下 質疑応答）

<委員>：守山市で児童育成クラブを2クラブ、草津市で認定こども園2園運営しているとのことだが、それぞれの定員は。

<ご縁会>：守山市が130名と50名、草津市の認定こども園については70名程度である。

<委>：応募した「のびっ子」が定員120名であるので、経験が生きるかどうか、を聞いたかったが、130人ということで、多くの子どもたちを受け入れた体制があるということがわかった。

<委>：老上西でこども園を運営しており、子どもたちが余り変化のないところで学童期を接続できたらいいという考えで応募したとのことだが、信頼できる大人が増えるということも、ある意味捉え方によっては、プラスになる可能性も大いにあるなど思っているが、体験の中でどんなふうに捉えているのか。

また、支援員には、「子どもたちの気持ちを十分受けて、寄り添う大人」「将来モデルになるような大人」である方を置いているということだが、そのためにはかなりの研修が必要だと思うが。

<ご縁会>：接続期の間関係について、保育園やこども園、そして児童クラブでの職

員は変わっていくが、こうした子育てで悩みの多かった時期に関わった先生に、しんどくなったときにふっと会いに来られる保護者の方がおられる。そういういった場合にあそこの学童なら安心して任せられるよと言ってあげられる点で接続の利点はあると思う。

研修については、「のびっ子」が始まるまでの限られた時間であるが、グループワークをしたり、少し立ち位置の違う、支援員以外の職員が中に入っているいろいろな話を聞かせていただき、みんなで考えていく、みんなで作りに上げていくという、研修を取り入れている。

<委>：宿題の時間と遊びの時間について時間の割り振りについてはどのようにしているのか。

<ご縁会>：通常は、最初に宿題をするようにしている。3時半になったらおやつが始まるので、それまでの間は宿題する子は宿題をする、しない子はボードゲームや読書など、室内で静かに遊んで、おやつを食べた後に外遊びやいろいろな活動がなされていく。学年ごとに生活していくと、どうしてもすれ違いになってしまうのでおやつの時間は統一している。

<委>：ヒヤリハットの取り組みについてについて習慣的にしてよかったということをおっしゃっていたが、具体的には。

<ご縁会>この間、子どもがサッカーしている近くで、水筒持った女の子が歩いおり、その子にサッカーボールが当たって、転倒した拍子に水筒で頭を強く打ったことがあった。その事例を挙げて、このとき支援員の立ち位置はどうだった、どうしてこの事故は防げなかったのだろうかを職員で検討して、対応策を考えた。

◆社会福祉法人 淡海すぎのこ会（以下「すぎのこ」という。）によるプレゼンテーション：略

（以下 質疑応答）

<委員>：縦割りの利点を生かしとあるが、具体的には。

<すぎのこ>：年によって違うが、1年生から6年生までいて、その中でいろいろな活動を通して、お互いに助け合っていくということである。6年生にはリーダーになってもらって、下の子どもたちをまとめてもらったり、優しくしてもらおうようにしている。下の子どもたちもその6年生に憧れて、自分も大きな学年になったときは、そこに向かっていけるように関わっている。

<委>：子どもにとって「のびっ子」をどういう位置づけで考えているか。

<すぎのこ>：家庭の保育の時間の補填を集団生活で行っている。

<委>：集団指導および活動を強調されていたが、家庭的な部分は。

<すぎのこ>：今現在、定員70名のところ80名を超えるお子さんを預かっており、80名を超える人数で家庭的な雰囲気を出すというのは、難しく、集団生活になるところはいたし方ないと思っている。

また、集団生活を送る中で、自分も尊重される存在だけれども、相手も尊重される存在であるということも感じて欲しいと思っており、コミュニケーション能力の向上にもつながるのではと思っている。

<委>：保育園も運営されているが、利用者は山田学区の人が多いのか。

<すぎのこ>：保育園のほうは園児の3分の2程度が山田学区の子どもであり、卒園児の半分ぐらいが「のびっ子」山田に来られている。保護者には安心して来ていただいていると思う。

<委>：リーダーのことをおっしゃっていたが、リーダーは6年生になるのか。

<すぎのこ>：絶対に6年生ということはない。過去は輪番制にしていたが、リーダーをするのが苦痛になる子もいるので、とりあえず高学年に「どうか」と促し、嫌だと言ったら、リーダーをやりたい子どもたちで決めるようにしている。

<委>：現在の定員が70で80人ぐらい来られているようであるが、提案では来年度は100名ということであるが、運営上の工夫について、安全対策も含めて、決意等があれば。

<すぎのこ>：子どもの生活を考えた場合に、1・2年生はまだ楽しくということで、安全だけを気をつければいいのかもかもしれないが、3年生以上になったらある程度の時間は静かなところで勉強に向かうという時間も生活の中で取り入れたいと思う。それを考えたときに、今の環境の中では大変厳しいのかなというところで、今教育委員会のほうに市を通じてお願いをしており、放課後に空いている教室の利用について相談中である。ちなみに、夏休みの期間については、100名を超える人数を預かっているが、その間については学校の協力のもと、部屋を1つ貸していただいて、高学年はそちらのほうで静かに勉強に取り組むというスペースにさせていただいている。

◆特定非営利活動法人 ひかりの子（以下「ひかりの子」という。）によるプレゼンテーション：略

（以下 質疑応答）

<委員>：保護者と共に、子どもの放課後の時間の過ごし方をつくっていくとあり、望ましいあり方かと思うが、保護者会が月に1回ということで、保護者の中で参加しにくい方もおられるのでは。

<ひかりの子>：おっしゃるとおり、保護者会は土曜日の夜に開催しているので、仕事等でどうしても出られない方はいる。そのようなときには、保護者会の議事録を施設に掲示をしたり、手紙をお渡ししたり、保護者に必ず連絡が届くようにしている。

<委>：アンケートに、ペナルティというような文言が入った記述があったが、これはどのように理解したらいいか。

<ひかりの子>：ペナルティというのは、お休みが続いた場合は違う奉仕活動に回ってもらう部分を言われていると思うが、実際、保護者の負担の声もある。支援員から必ず行ってくださいと話しておらず、毎年その年の役員になられた方で今年度はどういう方針でいくのか、保護者会長を中心にその話し合いをされて決めていただいている。

<委>：「のびっ子」老上西であるが、個人情報の取扱いがBという自己評価に対して、所管評価がDとなっているが、経緯はともかく、今後の対策はあるのか。

<ひかりの子>：個人情報の取扱いについては、NPOと保護者会が連携しながら運営を行っている関係から、具体的に個人名を出すことはないが、話の展開から保護者が、「ひょっとしたら、この方の個人情報かな」となる恐れがあったため所管評価がDとなっていると思う。

<委>：利用者満足度アンケートが実施されなかったのは何か理由があるか。

<ひかりの子>：アンケートについては失念してしまった。ただ、毎月保護者会も行っており、いろいろなお話もさせていただくので、アンケートがなくてもおおむね保護者の意見については聞かせていただいている。

## 2 採決

審議の結果、各児童育成クラブについて、以下の表に掲げる事業者を候補者とすることが適当であるとの結論に至った。

施設名	応募者数	事業者名
「のびっ子」笠縫	応募者:1者	企業組合労協センター事業団
「のびっ子」矢倉	応募者:1者	社会福祉法人 草津保育園
「のびっ子」玉川	応募者:2者	社会福祉法人 あさひ保育園
「のびっ子」笠縫東	応募者:1者	社会福祉法人 良友会
「のびっ子」志津	応募者:2者	社会福祉法人 志津保育園
「のびっ子」草津	応募者:1者	企業組合労協センター事業団
「のびっ子」常盤	応募者:1者	企業組合労協センター事業団
「のびっ子」山田	応募者:1者	社会福祉法人 淡海すぎのこ会
「のびっ子」南笠東	応募者:2者	社会福祉法人 あさひ保育園
「のびっ子」志津南	応募者:2者	企業組合労協センター事業団選定
「のびっ子」渋川	応募者:1者	社会福祉法人 良友会
「のびっ子」大路	応募者:1者	企業組合労協センター事業団
「のびっ子」老上	応募者:2者	特定非営利活動法人 ひかりの子
「のびっ子」老上西	応募者:3者	社会福祉法人 ご縁会